

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券
設定日	2014年4月4日
信託期間	2014年4月4日～2024年4月8日（約10年）
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、主にニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品に投資を行うことにより、安定的な利息収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要運用対象	短期NZドル債オープン（資産成長型） <ul style="list-style-type: none">・短期NZドル債マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。 短期NZドル債マザーファンド <ul style="list-style-type: none">・ニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
投資制限	短期NZドル債オープン（資産成長型） <ul style="list-style-type: none">・株式への実質投資は行いません。・外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 短期NZドル債マザーファンド <ul style="list-style-type: none">・株式への投資は行いません。・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎年3月、9月の7日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、収益分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含まれます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。 *分配金自動再投資型の場合、分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料で再投資されます。

運用報告書（全体版）

第4期

決算日 2016年3月7日

短期NZドル債オープン （資産成長型）

受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて「短期NZドル債オープン（資産成長型）」は、去る2016年3月7日に第4期の決算を行いました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

ホームページアドレス <http://www.daiwasbi.co.jp/>

お問い合わせ先

受付窓口：（電話番号）0120-286104

受付時間：午前9時から午後5時まで（土、日、祝日除く。）

※お客様のお取引内容につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。



大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

東京都千代田区霞が関三丁目2番1号

短期NZドル債オープン（資産成長型）

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算)		公社債組入比率	債券先物組入比率	純資産額		
	(分配落)	税金配	込金	期騰落	中率				(参考指数)	期騰落
(設定日) 2014年4月4日	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	10,000	% —	% —	百万円 25	
第1期 (2014年9月8日)	9,959	0	△	0.4	9,973	△	0.3	96.4	—	322
第2期 (2015年3月9日)	10,378	10		4.3	10,374		4.0	92.9	—	323
第3期 (2015年9月7日)	8,950	0	△	13.8	8,985	△	13.4	95.1	—	263
第4期 (2016年3月7日)	9,342	0		4.4	9,439		5.1	95.5	—	274

Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) とは、Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (ニュージーランドドルベース) を委託者が円換算し、設定日を10,000として指数化したものです。

*設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。

*基準価額の騰落率は分配金込み

*先物組入比率は、買建比率-売建比率

*当ファンドは親投資信託を組み入れますので、各組入比率は実質組入比率を記載しています。

当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算)		公社債組入比率	債券先物組入比率
		騰落率	(参考指数)	騰落率		
(期首) 2015年9月7日	円 8,950	% —	8,985	% —	% 95.1	% —
9月末	9,164	2.4	9,207	2.5	94.0	—
10月末	9,764	9.1	9,824	9.3	92.9	—
11月末	9,602	7.3	9,662	7.5	95.8	—
12月末	9,927	10.9	10,013	11.4	95.7	—
2016年1月末	9,437	5.4	9,527	6.0	95.2	—
2月末	9,042	1.0	9,133	1.6	95.6	—
(期末) 2016年3月7日	9,342	4.4	9,439	5.1	95.5	—

*騰落率は期首比です。

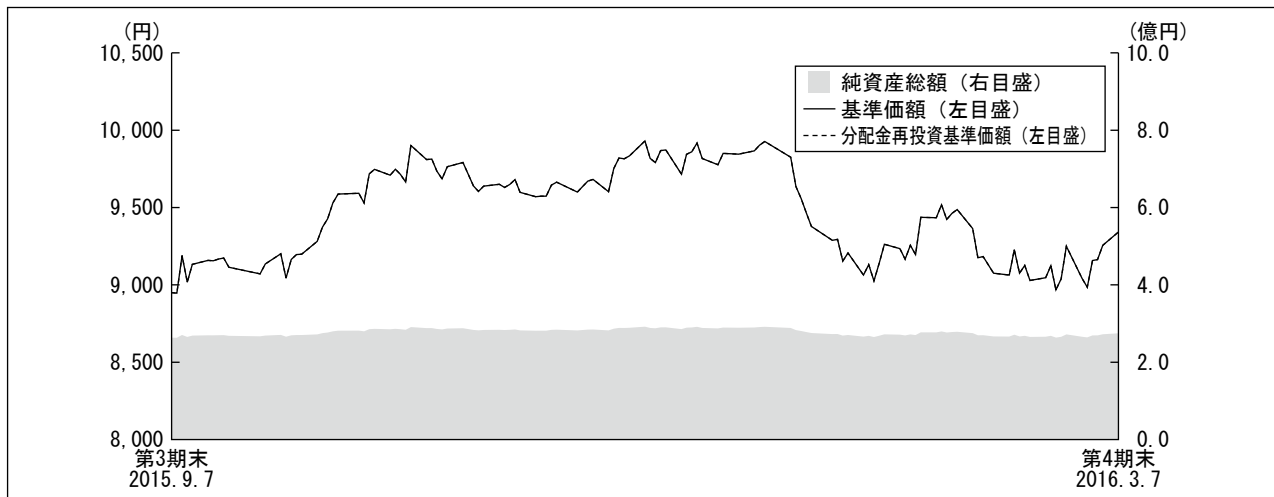
*先物組入比率は、買建比率-売建比率

*当ファンドは親投資信託を組み入れますので、各組入比率は実質組入比率を記載しています。

短期NZドル債オープン（資産成長型）

運用経過

【基準価額等の推移】



*当ファンドにはベンチマークはありません。

*分配金再投資基準価額は、期首の基準価額を基準に算出しております。

*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

第4期首：8,950円

第4期末：9,342円（既払分配金 0円）

騰落率：+4.4%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当ファンドは、短期NZドル債マザーファンドへの投資を通じて、高格付けのニュージーランド・ドル建ての公社債および短期金融商品へ投資を行いました。

（上昇要因）

ニュージーランドドルが期首の74.80円から期末に77.21円へ上昇したことに加え、ニュージーランド債券の利回りが低下（債券価格は上昇）したことが上昇要因となりました。低迷が続いていた乳製品価格に底入れの兆しが見え始めたことや、企業や家計の景況感が回復したことを受けて、ニュージーランドドルは対米ドルで堅調に推移しました。2016年の年明け以降は、原油安や中国経済への懸念の高まりを受けて世界的に金利が急低下し、ニュージーランド債券の利回りもこの動きに連動して低下（債券価格は上昇）し、プラスに寄与しました。

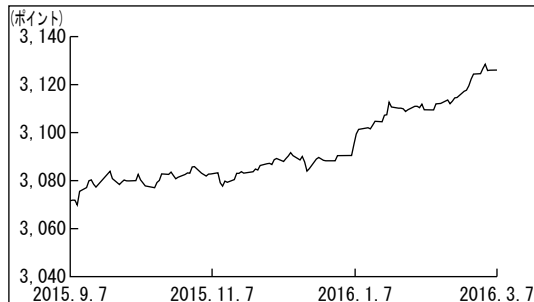
短期NZドル債オープン（資産成長型）

【投資環境】

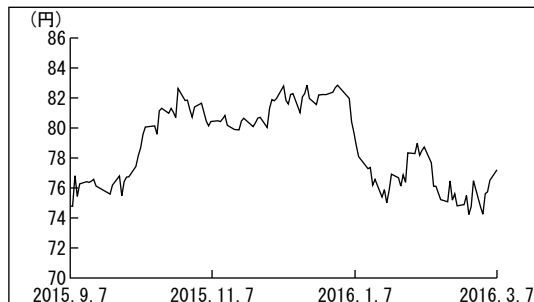
当期のニュージーランド債券市場は、低迷が続いていた乳製品価格が底入れしてニュージーランドドルが上昇に転じた中、2016年の年明け以降に市場でのリスク回避の姿勢が一段と強まり、世界的に国債利回りが低下した影響を受けて堅調に推移しました。

2015年8月下旬に乳製品の国際入札価格が上昇に転じたことで企業や家計の景況感が回復したことや、6月から続いたニュージーランド準備銀行（RBNZ）による利下げが景気を下支えし、ニュージーランドドルは堅調に推移しました。市場の関心は米国の利上げ開始時期に集中し、12月に利上げが実施されるまでは米国債利回り上昇の影響を受けてニュージーランド債券の利回りも上昇（債券価格は下落）しました。しかし、2016年の年明け直後から中国株の急落を発端に中国経済の減速に対する懸念が再燃し、また、原油価格が底割れしたことや市場でリスク回避の姿勢が一段と強まったことから世界的に債券利回りが低下しました。1月末には日本銀行のマイナス金利導入がサプライズとなり、円高が進行しニュージーランドドルは対円で下落に転じましたが、3月に入り小幅反発して期を終えました。

Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Yearの推移



為替レート（ニュージーランドドル/円）の推移



短期N Zドル債オープン（資産成長型）

【ポートフォリオ】

■短期N Zドル債オープン（資産成長型）

主要投資対象である短期N Zドル債マザーファンドを期を通じて高位に組み入れ、期末の実質的な公社債組入比率は95.5%としました。

■短期N Zドル債マザーファンド

当期の騰落率は、+5.0%となりました。

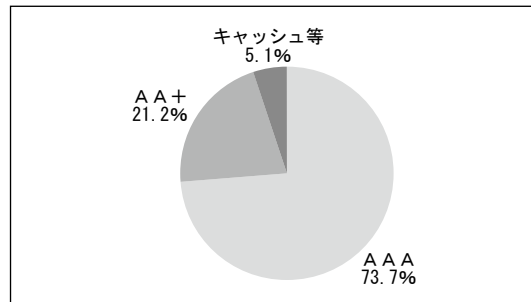
世界市場の動向や、金融政策の方向などを見極めつつ機動的にデュレーション*をコントロールしました。

期初から2015年10月までは、ウィーラーRBNZ総裁が9月に利下げを決定した際の記者会見で大幅利下げの可能性を示唆したことから、デュレーションを2.4年程度へ長期化したものの、乳製品価格が堅調に推移しニュージーランド国内の経済指標が改善したため、10月下旬に2年程度に短期化しました。年末にかけては、米国の利上げ開始に焦点が集まり、米国債利回り上昇の影響を受けてニュージーランド債券の利回りも上昇したことや、12月のRBNZ会合で短期金利見通しが現状の水準に据え置かれ緩和姿勢がやや後退したため、デュレーションをさらに短期化し1.9年程度としました。2016年の年明け後は、中国経済などへの懸念や原油安を背景にリスク回避の姿勢が強まる中、市場の変動が激しくボラティリティが急激に高まったことや市場での利下げ織り込み幅はやや行き過ぎと判断し、デュレーションを小幅短期化し1.5年程度としました。

*デュレーションとは、「投資元本の平均的な回収期間」を表す指標で、単位は「年」で表示されます。また、「金利の変動に対する債券価格の変動性」の指標としても利用され、一般的にこの値が長い（大きい）ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

格付別資産構成

(2016年3月7日現在)

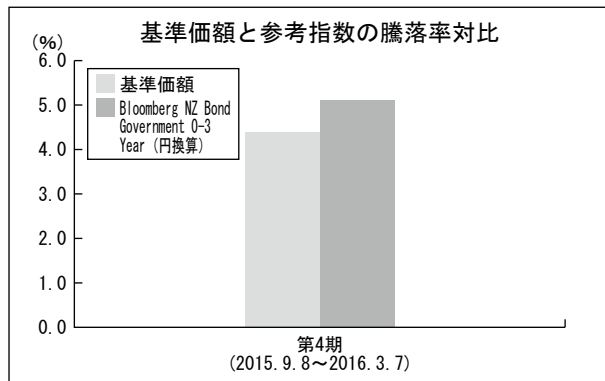


*純資産総額に対する評価額の割合

短期NZドル債オープン（資産成長型）

【ベンチマークとの差異】

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



【分配金】

収益分配金につきましては、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、見送りとさせて頂きました。なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

■分配原資の内訳

(1万口当り・税引前)

項目	第4期	
	2015年9月8日 ~2016年3月7日	
当期分配金 (円)	0	
(対基準価額比率) (%)	0.00	
当期の収益 (円)	—	
当期の収益以外 (円)	—	
翌期繰越分配対象額 (円)	817	

※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

短期NZドル債オープン（資産成長型）

今後の運用方針

■短期NZドル債オープン（資産成長型）

引き続き、運用の基本方針に従い、マザーファンドへの投資を通じてニュージーランドドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品に投資を行うことにより、安定的な利息収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指します。

■短期NZドル債マザーファンド

RBNZは、2016年の年初からの国際金融市場の緊張や相次ぐ他国の金融緩和に同調して3月に追加利下げを実施し、政策金利を2.25%としました。今回の利下げで2015年6月以来の政策金利の引き下げ幅は合計で1.25%となりました。一連の緩和策により、乳製品市況の悪化に伴う企業や家計の景況感の落ち込みが最小限にとどまり、過熱していたオークランド住宅市場についても規制が強化されたことで鎮静化しており、景気への先行き懸念は払拭されています。また、足元では中国の金融市場が安定し原油価格の底入れ観測が強まりつつあり、今後は市場のリスク回避姿勢がはっきりと回復に向かえば、良好なニュージーランド経済が見直され、行き過ぎた金利低下が修正される可能性が高いと考えています。したがって、金利リスクに関しては当面、抑制的なスタンスを維持し、金利水準を見極めながら機動的にコントロールしていく方針です。投資銘柄に関しては、国債のほか、地方債や国際機関債等のカウリ債（非居住者が発行するニュージーランドドル建ての国内債）へ分散投資を行う方針です。

1万口当りの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2015年9月8日～2016年3月7日		
	金額	比率	
信託報酬	57円	0.606%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,489円です。
（投信会社）	(28)	(0.295)	ファンドの運用等の対価
（販売会社）	(28)	(0.295)	購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(2)	(0.016)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	8	0.088	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(8)	(0.082)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.005)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	66	0.693	

* 「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

* 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

短期NZドル債オープン（資産成長型）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

（2015年9月8日から2016年3月7日まで）

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
短期NZドル債マザーファンド	千口 1,925	千円 1,859	千口 4,026	千円 3,775

利害関係人との取引状況等

（2015年9月8日から2016年3月7日まで）

<短期NZドル債オープン（資産成長型）>

■利害関係人との取引状況

当期における利害関係人との取引はありません。

<短期NZドル債マザーファンド>

■利害関係人との取引状況

当期における利害関係人との取引はありません。

組入資産の明細

2016年3月7日現在

■親投資信託残高

	期首（前期末）	当 期	末
	口 数	口 数	評 価 額
短期NZドル債マザーファンド	千口 290,059	千口 287,958	千円 276,468

*短期NZドル債マザーファンド全体の受益権口数は、818,381千口です。

投資信託財産の構成

2016年3月7日現在

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
短期NZドル債マザーファンド	千円 276,468	% 100.0
投資信託財産総額	276,468	100.0

*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

1 ニュージーランド・ドル=77.21円

*短期NZドル債マザーファンド

当期末における外貨建資産（755,742千円）の投資信託財産総額（786,068千円）に対する比率 96.1%

短期N Zドル債オープン（資産成長型）

資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2016年3月7日) 現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	276,468,660円
短期N Zドル債マザーファンド(評価額)	276,468,660
(B) 負 債	1,703,994
未 払 信 託 報 酬	1,689,125
そ の 他 未 払 費 用	14,869
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	274,764,666
元 本	294,120,450
次 期 繰 越 損 益 金	△ 19,355,784
(D) 受 益 権 総 口 数	294,120,450口
1 万 口 当 り 基 準 価 額 (C / D)	9,342円

* 元本状況

期首元本額	294,194,044円
期中追加設定元本額	1,980,672円
期中一部解約元本額	2,054,266円

* 元本の欠損 19,355,784円

損益の状況

自2015年9月8日
至2016年3月7日

項 目	当 期
(A) 有 価 証 券 売 買 損 益	13,158,996円
売 買 益	13,241,868
売 買 損	△ 82,872
(B) 信 託 報 酬 等	△ 1,703,994
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	11,455,002
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 30,999,470
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	188,684
(配 当 等 相 当 額)	(1,084,353)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 895,669)
(F) 計 (C + D + E)	△ 19,355,784
次 期 繰 越 損 益 金 (F)	△ 19,355,784
追 加 信 託 差 損 益 金	188,684
(配 当 等 相 当 額)	(1,088,552)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 899,868)
分 配 準 備 積 立 金	22,957,779
繰 越 損 益 金	△ 42,502,247

* 有価証券売買損益には、期末の評価換えによるものを含みます。

* 信託報酬等には、消費税等相当額を含めて表示しております。

* 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本の差額をいい、元本を下回る額は損失として、上回る額は利益として処理されます。

< 分配金の計算過程 >

信託約款に基づき計算した収益分配可能額及び収益分配金の計算過程は以下のとおりです。

(A) 配 当 等 取 益 (費用控除後)	6,324,487円
(B) 有 価 証 券 売 買 等 損 益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0
(C) 収 益 調 整 金	1,088,552
(D) 分 配 準 備 積 立 金	16,633,292
分 配 可 能 額 (A + B + C + D)	24,046,331
(1 万 口 当 り 分 配 可 能 額)	(817.57)
収 益 分 配 金	0
(1 万 口 当 り 収 益 分 配 金)	(0)

お知らせ

該当事項はございません。

※各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しております。

短期NZドル債マザーファンド

運用報告書

決算日：2016年3月7日

(第4期：2015年9月8日～2016年3月7日)

当ファンドは、上記の通り決算を行いました。ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
運用方針	主にニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品に投資することにより、利息収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指します。
主要運用対象	ニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
投資制限	<ul style="list-style-type: none">・ 株式への投資は、行いません。・ 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。



大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

東京都千代田区霞が関三丁目2番1号

<http://www.daiwasbi.co.jp/>

短期NZドル債マザーファンド

設定以来の運用実績

決算期	基準価額		Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) (参考指数)		公社債組入比率	債券先物組入比率	純資産総額
	円	騰落率	(参考指数)	騰落率			
(設定日) 2014年4月4日	10,000	—	10,000	—	—	—	百万円 50
第1期 (2014年9月8日)	10,024	0.2	9,973	△ 0.3	96.2	—	816
第2期 (2015年3月9日)	10,525	5.0	10,374	4.0	92.3	—	768
第3期 (2015年9月7日)	9,141	△13.1	8,985	△13.4	94.4	—	718
第4期 (2016年3月7日)	9,601	5.0	9,439	5.1	94.9	—	785

Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) とは、Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (ニュージーランドドルベース) を委託者が円換算し、設定日を10,000として指数化したものです。

*設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。

*先物組入比率は、買建比率-売建比率

当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) (参考指数)		公社債組入比率	債券先物組入比率
	円	騰落率	(参考指数)	騰落率		
(期首) 2015年9月7日	9,141	—	8,985	—	94.4	—
9月末	9,367	2.5	9,207	2.5	93.9	—
10月末	9,990	9.3	9,824	9.3	92.7	—
11月末	9,835	7.6	9,662	7.5	95.6	—
12月末	10,177	11.3	10,013	11.4	95.3	—
2016年1月末	9,686	6.0	9,527	6.0	94.8	—
2月末	9,292	1.7	9,133	1.6	95.0	—
(期末) 2016年3月7日	9,601	5.0	9,439	5.1	94.9	—

*騰落率は期首比です。

*先物組入比率は、買建比率-売建比率

運用経過

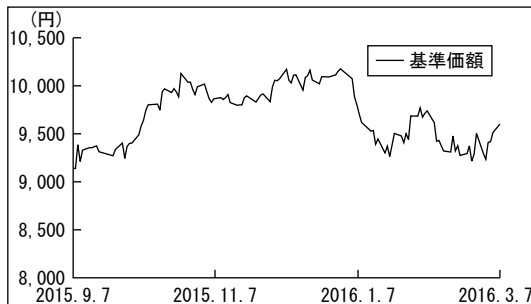
【基準価額等の推移】

期首：9,141円
 期末：9,601円
 騰落率：+5.0%

【基準価額の主な変動要因】

(上昇要因)

ニュージーランドドルが期首の74.80円から期末に77.21円へ上昇したことに加え、ニュージーランド債券の利回りが低下（債券価格は上昇）したことが上昇要因となりました。低迷が続いていた乳製品価格に底入れの兆しが見え始めたことや、企業や家計の景況感が回復したことを受けて、ニュージーランドドルは対米ドルで堅調に推移しました。2016年の年明け以降は、原油安や中国経済への懸念の高まりを受けて世界的に金利が急低下し、ニュージーランド債券の利回りもこの動きに連動



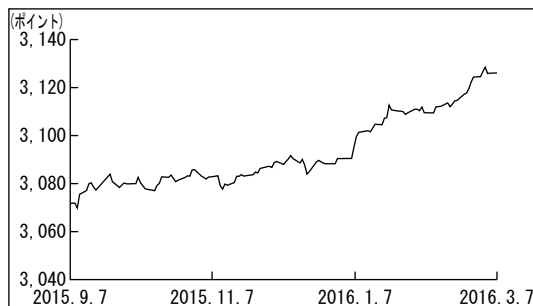
ニュージーランド債券の利回りもこの動きに連動

【投資環境】

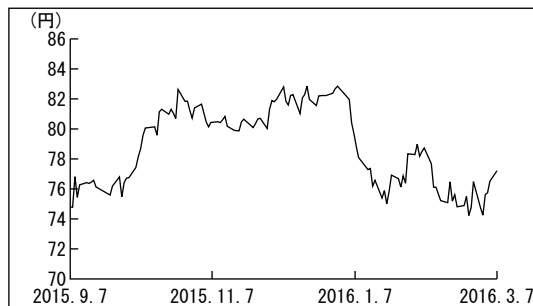
当期のニュージーランド債券市場は、低迷が続いていた乳製品価格が底入れしてニュージーランドドルが上昇に転じた中、2016年の年明け以降に市場でのリスク回避の姿勢が一段と強まり、世界的に国債利回りが低下した影響を受けて堅調に推移しました。

2015年8月下旬に乳製品の国際入札価格が上昇に転じたことで企業や家計の景況感が回復したことや、6月から続いたニュージーランド準備銀行（RBNZ）による利下げが景気を下支えし、ニュージーランドドルは堅調に推移しました。市場の関心は米国の利上げ開始時期に集中し、12月に利上げが実施されるまでは米国債利回り上昇の影響を受けてニュージーランド債券の利回りも上昇（債券価格は下落）しました。しかし、2016年の年明け直後から中国株の急落を発端に中国経済の減速に対する懸念が再燃し、また、原油価格が底割れしたことや市場でリスク回避の姿勢が一段と強まったことから世界的に債券利回りが低下しました。1月末には日本銀行のマイナス金利導入がサプライズとなり、円高が進行しニュージーランドドルは対円で下落に転じましたが、3月に入り小幅反発して期を終えました。

Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Yearの推移



為替レート（ニュージーランドドル/円）の推移



短期NZドル債マザーファンド

【ポートフォリオ】

当期の騰落率は、+5.0%となりました。

世界市場の動向や、金融政策の方向などを見極めつつ機動的にデュレーション*をコントロールしました。

期初から2015年10月までは、ウィーラーRBNZ総裁が9月に利下げを決定した際の記者会見で大幅利下げの可能性を示唆したことから、デュレーションを2.4年程度へ長期化したものの、乳製品価格が堅調に推移しニュージーランド国内の経済指標が改善したため、10月下旬に2年程度に短期化しました。年末にかけては、米国の利上げ開始に焦点が集まり、米国債利回り上昇の影響を受けてニュージーランド債券の利回りも上昇したことや、12月のRBNZ会合で短期金利見通しが現状の水準に据え置かれ緩和姿勢がやや後退したため、デュレーションをさらに短期化し1.9年程度としました。2016年の年明け後は、中国経済などへの懸念や原油安を背景にリスク回避の姿勢が強まる中、市場の変動が激しくボラティリティが急激に高まったことや市場での利下げ織り込み幅はやや行き過ぎと判断し、デュレーションを小幅短期化し1.5年程度としました。

*デュレーションとは、「投資元本の平均的な回収期間」を表す指標で、単位は「年」で表示されます。また、「金利の変動に対する債券価格の変動性」の指標としても利用され、一般的にこの値が長い（大きい）ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

【ベンチマークとの差異】

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

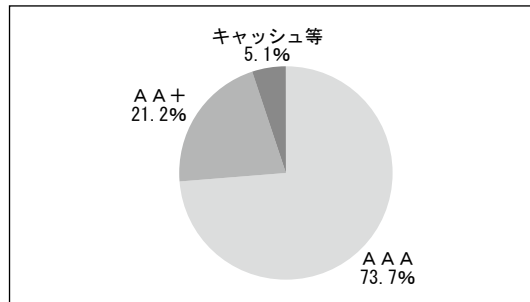
基準価額の騰落率は、参考指数であるBloomberg NZ Bond Government 0-3 Year（円換算）の騰落率+5.1%を0.1%下回りました。

今後の運用方針

RBNZは、2016年の年初からの国際金融市場の緊張や相次ぐ他国の金融緩和に同調して3月に追加利下げを実施し、政策金利を2.25%としました。今回の利下げで2015年6月以来の政策金利の引き下げ幅は合計で1.25%となりました。一連の緩和策により、乳製品市況の悪化に伴う企業や家計の景況感の落ち込みが最小限にとどまり、過熱していたオークランド住宅市場についても規制が強化されたことで鎮静化しており、景気への先行き懸念は払拭されています。また、足元では中国の金融市場が安定し原油価格の底入れ観測が強まりつつあり、今後は市場のリスク回避姿勢ははっきりと回復に向かえば、良好なニュージーランド経済が見直され、行き過ぎた金利低下が修正される可能性が高いと考えています。したがって、金利リスクに関しては当面、抑制的なスタンスを維持し、金利水準を見極めながら機動的にコントロールしていく方針です。投資銘柄に関しては、国債のほか、地方債や国際機関債等のカウリ債（非居住者が発行するニュージーランドドル建ての国内債）へ分散投資を行う方針です。

格付別資産構成

(2016年3月7日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

短期NZドル債マザーファンド

1万口当りの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2015年9月8日～2016年3月7日		
	金額	比率	
その他費用 (保管費用)	8円 (8)	0.082% (0.082)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
合計	8	0.082	
期中の平均基準価額は9,725円です。			

*「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

*期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

*円未満は四捨五入しています。

売買及び取引の状況

(2015年9月8日から2016年3月7日まで)

■公社債

		買付額		売付額	
外国	ニュージーランド	国債証券	千ニュージーランド・ドル 2,796	千ニュージーランド・ドル 2,565	
		地方債証券	113	—	
		特殊債証券	324	—	

*金額は受渡し代金（経過利子分は含まれていません。）

主要な売買銘柄

(2015年9月8日から2016年3月7日まで)

■公社債

当			期		
買付		金額	売付		金額
銘柄	柄	金額	銘柄	柄	金額
		千円			千円
NEW ZEALAND GOVERNMENT 6 12/15/17		105,057	NEW ZEALAND GOVERNMENT 6 12/15/17		99,871
NEW ZEALAND GOVERNMENT 6 05/15/21		89,267	NEW ZEALAND GOVERNMENT 6 05/15/21		75,826
NEW ZEALAND GOVERNMENT 5.5 04/15/23		27,968	NEW ZEALAND GOVERNMENT 5.5 04/15/23		28,562
ASIAN DEVELOPMENT BANK 4.125 10/28/16		26,865			
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC 6 05/15/21		8,453			

*金額は受渡し代金（経過利子分は含まれていません。）

短期NZドル債マザーファンド

利害関係人との取引状況等

(2015年9月8日から2016年3月7日まで)

■利害関係人との取引状況

当期における利害関係人との取引はありません。

組入資産の明細

2016年3月7日現在

■公社債

A 債券種類別開示

外国（外貨建）公社債

区 分	当 期				末			
	額 面 金 額	評 価 額		組入比率	う ち BB格以下 組入比率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
ニュージーランド	千ニュージーランド・ドル 9,100	千ニュージーランド・ドル 9,657	千円 745,673	% 94.9	% —	% 7.9	% 13.6	% 73.4
合 計	—	—	745,673	94.9	—	7.9	13.6	73.4

*組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合

*邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

B 個別銘柄開示

外国（外貨建）公社債

銘 柄	当 期				末		償 還 年 月 日
	種 類	利 率	額 面 金 額	評 価 額			
				外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額		
(ニュージーランド・ドル…ニュージーランド)		%	千ニュージーランド・ドル	千ニュージーランド・ドル	千円		
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	6.0000	2,000	2,130	164,463	2017/12/15	
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	6.0000	400	467	36,131	2021/05/15	
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	5.0000	100	107	8,325	2019/03/15	
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	3.0000	200	204	15,804	2020/04/15	
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC	地方債証券	6.0000	1,000	1,056	81,605	2017/12/15	
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC	地方債証券	5.0000	200	212	16,384	2019/03/15	
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC	地方債証券	6.0000	300	338	26,157	2021/05/15	
LANDWIRTSCH. RENTENBANK	特殊債券	7.0000	100	104	8,082	2017/05/10	
LANDWIRTSCH. RENTENBANK	特殊債券	4.0000	300	309	23,890	2020/01/30	
INT BK RECON & DEVELOP	特殊債券	4.5000	1,300	1,310	101,212	2016/08/16	
INTL FINANCE CORP	特殊債券	6.2500	500	530	40,942	2017/12/15	
EUROPEAN INVESTMENT BANK	特殊債券	7.5000	1,700	1,832	141,525	2017/12/15	
COUNCIL OF EUROPE	特殊債券	7.5000	500	546	42,180	2018/04/30	
ASIAN DEVELOPMENT BANK	特殊債券	4.1250	500	504	38,967	2016/10/28	
合 計	—	—	9,100	9,657	745,673	—	

*邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

短期NZドル債マザーファンド

投資信託財産の構成

2016年3月7日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公 社 債	745,673	94.9
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	40,395	5.1
投 資 信 託 財 産 総 額	786,068	100.0

* 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

1 ニュージーランド・ドル=77.21円

* 当期末における外貨建資産（755,742千円）の投資信託財産総額（786,068千円）に対する比率 96.1%

資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2016年3月7日) 現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	937,395,123円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	29,425,352
公 社 債(評価額)	745,673,333
未 収 入 金	152,226,976
未 収 利 息	9,743,692
前 払 費 用	325,770
(B) 負 債	151,638,652
未 払 金	151,638,652
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	785,756,471
元 本	818,381,045
次 期 繰 越 損 益 金	△ 32,624,574
(D) 受 益 権 総 口 数	818,381,045口
1 万 口 当 り 基 準 価 額(C/D)	9,601円

* 元本状況

期首元本額	786,432,377円
期中追加設定元本額	80,503,513円
期中一部解約元本額	48,554,845円

* 元本の内訳

短期NZドル債オープン（毎月分配型）	530,422,853円
短期NZドル債オープン（資産成長型）	287,958,192円

* 元本の欠損

32,624,574円

損益の状況

自2015年9月8日
至2016年3月7日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	20,198,429円
受 取 利 息	20,198,429
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	15,976,563
売 買 益	62,640,890
売 買 損	△46,664,327
(C) そ の 他 費 用	△ 641,677
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	35,533,315
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△67,516,460
(F) 解 約 差 損 益 金	1,192,696
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 1,834,125
(H) 計 (D+E+F+G)	△32,624,574
次 期 繰 越 損 益 金(H)	△32,624,574

* 有価証券売買損益には、期末の評価換えによるものを含まず。

* 解約差損益金とは、一部解約時の解約金額と元本の差額をいい、元本を下回る額は利益として、上回る額は損失として処理されます。

* 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本の差額をいい、元本を下回る額は損失として、上回る額は利益として処理されます。

お知らせ

該当事項はございません。

※各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しております。